

とく賜新あづかる。次取ついでみ軍の首發くわんぱつと。祝いわしめをそと昇起あがて。調酒土てうしゆど
厄提来やくていきり。核會かくわいよく這こみ栗くりもあり。一搗ひとつかせんとと提ひりて。扱ひてその采さい
きしむせむ。藤吉郎とうきちらうはうち飲のび。残方のちのうるき清きよ諄澤しんたく。よき首くび歐おく
高名たかなの標しるしと足あし下したへ纏頭まづかぶみせん。汗辱あせをしとりの采さいみ。よ速はやく鎧よろいひき
被かぎ。辞別いりりて初足はつあし亞足あし。芒鞋ぼうが踏ふ締しりり。主人しゅじんの痕あとを
還かへりり。松まつ下した長則ながのり全ぜん之細こ。遠とほくも往いくを荒井濱あらいのの。波なみうち流ながを
過とる响ひび。藤吉郎とうきちらうは走はりて。主人しゅじんの馬うま亦またみ奪うばまる。松まつ下した父子ふしはこれ
と看みて。その打う扮はへ那なふせ。鎧よろいは孰たしかみ借かりり。同どうと待まち得えで中ちゆう
村高吉むらたかきち。己おの石堂いしどうが教おしへり。濱名はなみの市いちりて買かひ討うり。勝かつぶき
吉辞きちじの鎧よろいと着きる。長則ながのりも今いま止とりり。打うち休やすて出陣しゅじんせり。然しか計けいふ
小田原おだわらの城主じゆうしゆ。北条氏康きたうぢやう一子いつこ氏政しやう。坂東さかとうの兵へいと雷らい発はつせり。天文二十

三年二月中旬しんねんにちゆうしゆう。小田原城おだわらじやうと癸軍みづかみを。駿河路しゆんがじ當あたりて推進おしすする。府中ふちゆうの
城じやうゆへ。今いま月つき治部ちぶ大補源義元おほのほろみよしのり。今いま月つき五郎ごらう氏輝しき早世はやせいし。子息こしよを。因よりて舍や兼かね瀬せ戸と禪ぜん
則すなはち義元よしのりの父ちちは。是こゝと听きて大おほふ怒おこり。席せきと叩たたて云いけるを。素もと小田原おだわらの
氏康しやうへ。我われ母はは北川きたがわ殿どの。今いま月つき氏し親ちかの室むろの舎や兄あに。伊勢いせ新九郎しんくわらう氏長しやう。入道にゅうだうと号なづを
の孫まごされ。故こ修理しゆり大夫だふ。朝あそ臣みま殿どのと。伯父おぢ甥むすこめ。我われと渠ちかと。従したが弟てい
別腹わかはらの血脈ちゆうまされ。疎そるるま。縁ゆかりふあらま。且かつ亦また早雲はやぐも入道にゅうだうの
京都きやうとの奉ほう公こう衆しゆう。う。漂泊ひょうはくりて東國とうこくへ下くだり。身みの三因さんいんも
る。我われ祖父そふ。治部ちぶ大補おほのほろ義忠よしのちゆう。渠ちかと憐あはれ。興きよう國こく寺てら。駿河しゆんが富士ふじ郡ぐんの城主じゆうしゆり
る。故こ殿どのの加勢かぜあり。故こみ。伊豆いづ相模さうもとも斬き隨したがく。遠とほく國くに
東とう八箇はつか國こく。威いと輝かがり。誰たれか加護かごあるを。北条氏康きたうぢやうその孫まごと
して。故こ殿どのの恩義おんぎもうち忘わすれ。我われ采國さいこくへ兵へいと將しやうて。たせ朝あそふ條じょう。